令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホームうえのまち （西ユニット）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390600096		
法人名	社会福祉法人 平和会		
事業所名	グループホームうえのまち （西ユニット）		
所在地	〒024-0021 岩手県北上市上野町一丁目7－1		
自己評価作成日	令和6年8月30日	評価結果市町村受理日	令和6年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「家庭的な雰囲気の中でご利用者様らしさを損なわないようなサービスの提供を目指します」を理念に掲げ、
ご利用者様一人一人と向き合いながら支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、市街地に立地し、周辺には住宅、公園などがあり生活環境が整っており、敷地内には同法人の小規模多機能ホームや高齢者住宅が併設され、消防訓練などを共同で実施し、それぞれの機能を活かし効率的な運営を行なっている。グループホームの理念を職員会議等で確認、共有し、年度の重点事項や職員ごとの目標をたて、入居前の利用者の個々の生活様式を大切にした介護サービスを提供している。3ヵ月ごとに発行する機関紙に加え、毎月の生活状況を居室担当が作成して家族に知らせ、面談時には家族の要望を伺っている。また、運営推進会議の委員の提案を受け、家族との面談方法や防災対策など、業務の運営に反映させている。職員会議や個人面談で職員の提案を受け、施設内の行事、特殊な車イスの配置など、介護用具の整備や業務の改善に活かしている。さらに、訪問診療医の指示や訪問看護師の助言を得て、施設内での看取りや利用者の体調管理を行い、利用者の安心と家族の信頼を得ている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 ６ 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームうえのまち （西ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所理念をユニットに掲示しており、職員は確認しながら利用者様らしさを尊重したケアを行っている。 ・会議の際にも理念とは？を再確認している。	事業所の理念として、家庭的な雰囲気の中で利用者らしさを損なわないようなサービスの提供を掲げ、年1回の全体会議で職員間で再確認し、年度の重点目標や職員ごとの目標を立て、家事や編み物、大正琴などの趣味、庭の手入れなどを積極的に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・新型コロナウイルス感染症流行前は、地域住民との関りがあったり、ボランティア受け入れなどしていたが、現在は感染予防の観点から、取り組みは行われていない。	コロナの影響がまだ解消していないため、流行前のような交流が回復するは至っていない。事業所の周囲を散歩する際に住民に声掛けしたり、住民からタオルなどの寄付を受ける程度のお付き合いに留まっている。地域包括支援センターからの依頼により、広報活動の一環として職員が認知症をテーマにした発表をしたこともある。	事業所内のコロナ禍の感染状況をみながら、ボランティアの受け入れなど、地域社会との連携が再び深まるような取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・利用者様の家族様や、入居申し込みや相談者から認知症に対する相談を受ける事がある。その際にはお話を傾聴し、アドバイスや当事業所、市内事業所のサービス内容等をお伝えする事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・施設の運営状況報告を行っている。 ・避難訓練を見学して頂いたり、施設の防災計画を説明し、意見を頂いたりしている。	運営推進会議の委員は、市役所、民生委員、地区の代表及び家族代表からなり、今年度は対面方式で報告や話し合いを行っている。委員から避難訓練の実施方法や災害に備えたヘルメットの準備の必要性などの提案があり、検討することとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・主にケアマネや管理者が市との連絡をとっている。	運営推進会議の委員として市の長寿社会課と地域包括支援センターの職員が1年おきに交替で就任している。介護認定の申請を家族が行うことが困難な場合は職員が代わって市に出向いて行っている。市からの情報は市役所にある当事業所のボックスから直接入手している。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームうえのまち （西ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止に関する指針を策定、委員会の設置、定期的な勉強会を開催している。 ・防犯上の理由から夜間帯は施錠している。	身体拘束に関する指針を職員が共有するとともに、3ヵ月に1回委員会を開催し、欠席者には議事録を回覧している。職員を講師としてスピーチロックなどについて議題とした勉強会を開催している。転倒防止のため約半数の利用者のベッドに離床センサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待に関する資料を配布し、全職員確認している。 ・職員の体調や精神状況も気にかけ、必要時には声がけしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・主に管理者やケアマネが関わっている。 ・権利擁護や成年後見制度についても資料を確認し勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約書や重要事項説明書について十分に説明し、理解・納得頂いている。 ・説明の途中にも、疑問点がないか確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・毎月の状態報告や、日常の家族様との連絡時を大切にし、家族様の思いを確認し、要望等ないか電話や面会時に確認している。	家族が面会や通院の送迎に来た時や、用事で電話があったときなどに意見を聞いている。グループの各事業所の様子を伝える「ほほえみ」を家族に3ヵ月毎に届けているほか、居室担当が利用者の写真を添えた手紙を毎月請求明細と一緒に家族に送付している。利用者の要望に沿って、家族からヨーグルトやお茶などのが提供されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員が話し合い、必要な備品は毎年購入している。 ・毎月の会議でも話し合いを行っている。	介護主任が年2回職員と面談し、業務の振返り、評価そして目標設定した結果を半年後に聞き取りしている。管理者と職員との話合いの中から行事の実施方法のほか、花壇の整備や車椅子の購入などの介護用具の充実に向けた提案があり、具体化している。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 ６ 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームうえのまち （西ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・処遇改善加算や特定処遇改善加算を算定。 ・有給休暇、看護・介護休暇の取得。 ・研修受講料や交通費補助。 ・永年勤続表彰。 など		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部、内部研修に参加し個々のスキルアップを目指している。 ・介助方法など小さなことでも他職員に質問し、アドバイスをもらえる取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・法人、姉妹法人の施設間では情報交換など出来ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前に利用者様が困っている事、不安な事を聞いてコミュニケーションを図りながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前に家族様から話を聞き、不安な事や困っている事を聞き、自宅での生活の様子を聞きながら今後の要望等、詳しく話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用者様と家族様から話を聞き取った上で支援の優先順位を考え、出来る限り対応するように努めている。 ・職員も情報収集に努め必要なケアを考えながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者様の得意な事や、好きな事、家で行ってきた事を変わらず出来るように、職員と一緒に行って頂いている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームうえのまち （西ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時等に日常生活の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・親戚から手紙が届いたり、映像が送られてきたりする利用者様もいる。	家族との面会も玄関先で、かつ限られた時間(15分以内)で可能となっている。従妹、兄弟、孫も面会に訪れることもある。食堂の窓から祭りで打ち上げられる花火を鑑賞して懐かしむ姿も見られる。定期的に訪れる理美容師とも新たな顔馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が間に入り利用者同士が会話をしたり、出来ない事は声を掛け合い、助け合い、支え合える関りが出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後はこれまでのケアの工夫などの情報を伝達し、暮らし方の継続性に配慮してもらえるよう働きかけている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人一人の希望や思いを聞き取り、確認を行い、生活の中で希望や思いに沿えるように会議で話し合っている。	日常生活の中で一人一人の思いや暮らし方の把握に努め、編み物、大正琴、歌などの趣味、食器拭き、自分の部屋やトイレ掃除といった家事や花壇の水遣り、草取りなどを楽しんでもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前の生活環境や生活歴を十分に聞き取り、生活スタイルが変わらないよう洗濯物たたみや食器拭き等を継続して行って頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・各利用者様が自分らしく過ごす事、無理なく生活する事を考え、体調・食事量・水分摂取量・排泄・睡眠状況等の確認も行っている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームうえのまち （西ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族様に支援の意向を確認したうえで、担当者と利用者様の性格、行動、ADL等を踏まえ、どのような援助が必要なのかを話し合い計画を立てている。	3ヵ月毎にアセスメントを行い、長期で6ヵ月でプランを見直している。職員全員がモニタリング評価表を作成し、ケアマネジャーが取りまとめ、職員会議で評価を行っている。プランの原案を家族に説明のうえ了承を得ている。医師の指示などもプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・少しでも変化があった時は詳しく記録し他職員にも申し送りしている。また、メモにも残したり、こまめな記録をする事で情報共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ニーズに対応出来るよう、余暇活動に取り組んだり、散歩をしたり、花を育てたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・新型コロナウイルス感染症流行以降、関りは薄くなってきている。 ・職員がサポートする事で利用者様が心身の力を発揮しながら暮らしを楽しめるように気にかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・受診の際は日常生活の様子や日々の状態、相談事などを記録用紙に記入し伝えている。 ・状態変化があった場合など、必要に応じて職員も同行している。	利用者18人のうち入居前からのかかりつけ医が9人、協力医療機関の訪問診療は9人となっている。かかりつけ医に通院する際は日々の生活の状況を記載した連絡票を家族に託している。整形外科、皮膚科、精神科などを受診する場合は、原則として家族が付き添っていいる。協力医療機関の看護師が毎週訪れ、健康状態の観察などの支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護と契約しており週に一回は訪問看護が来所される。その際に日常生活の様子報告や状態変化について相談し助言を頂きながら対応している。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームうえのまち （西ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院の際には在宅情報を作成し担当者に渡している。入院後は状態把握の為、ソーシャルワーカーと情報交換を密に行い早期退院に向けて受け入れ出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入院時に利用者様・家族様の意向を確認している。その後も状態変化があれば再度意向確認している。その際に医療的な行為を説明し、施設で対応出来る事、出来ない事の説明も行っている。 ・看取りについての指針も説明している。	看取りに関する指針を定め、職員間で共有している。入居時に本人・家族と話し合い、事業所ができることを説明している。介護度が3以上になった場合、家族に連絡して重度化した場合の支援について意向を確認している。昨年は訪問診療医と介護職員が対応し、3人の利用者を看取った。事業所内研修で看取りを担当した職員へのケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時の応急処置や対応マニュアルを作成し、適切に実践出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年二回の避難訓練を実施。反省会を行い改善点がないか話し合っている。 ・運営推進委員にも避難訓練を見学して意見を頂いている。	毎年、総合訓練と夜間想定訓練を実施している。利用者のほか消防設備の会社も参加している。地域の協力を得た防災組織結成を検討しているが、コロナ禍もあったため、実現出来ないでいる。備蓄は3日分の食糧を確保しているほか、ポータブル発電機、反射式ストーブを備えている。ハザードマップ上は浸水想定地域とはなっていない。事業継続計画（BCP）は、作成済みである。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・これまでの生活歴を理解し、思いを傷つけないような言葉使い等を意識して対応している。	ケース記録などの個人情報を記載した書類は事務室で厳重に管理し、利用者への言葉遣いと入居前の生活様式を大切にしている。排泄を失敗した場合は、周囲に知られないように声掛けしている。職員14人中男性職員が4人で、男性の利用者は1人だけだが、入浴は希望により同性介助としている。	

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームうえのまち （西ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者様の思っていることや、やりたい事を受け入れ、理解しようと努めている。 ・迷っている方には、考えのヒントになる声がけを行い、ご自身の気持ちを伝えて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・テレビを見たい、外へ行きたい、横になりたい等の個々の思いを大切にして、どのような生活が送りたいのかを考えて、希望通りとなるような支援を考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・髪が長い方にはなるべくご自身でブラシをかけて頂いたり、入浴の着替えを準備する際も一緒に着たい服を選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・テーブルを拭いたり、おしぼりを準備して頂いたり、食事の準備や配膳を一緒に行って頂いている。 ・食器洗いを率先して行って下さる利用者様もおり、今まで生活で行ってきたことを継続することにより、生活に張り合いを感じてい頂いている。	グループの小規模多機能事業所で各事業所分を一括調理しているが、ご飯と味噌汁は各ユニットで作っている。行事食は、例えば3月はちらし寿司、敬老会ではカップケーキを提供している。出前のお寿司を注文したり、流しそうめん、スイカ割りも企画している。嗜好品としてオロナミン、ヤクルトなど家族から差し入れがある場合もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者様それぞれの食事や水分摂取量を把握し、不足している場合はなぜ不足しているのかを考え、食事形態の変更や、介助方法の見直し等も行い対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・ご自身で出来る方も気分次第で歯磨きを行わない時もある為、声がけを行い歯磨きを促している。 ・介助が必要な方には、丁寧には磨きを行うと共に、口腔内に異常がないか注意して観察を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレでの排泄を促すため、排尿や排便の間隔を見ながらトイレ誘導を行っている。	利用者ごとに排泄チェック表を活用して声掛けや誘導を行っている。布パンツ3人、リハビリパンツ15人でほとんどパットを併用している。トイレに自分で行ける人は5人である。夜間にポータブルトイレを1人が使用している。トイレは車椅子対応となっている。	

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームうえのまち （西ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘により食欲不振や座位姿勢の傾き等の影響がみられる利用者様もいるため、水分摂取を促したり、体操等に参加して頂き体を動かすように促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴のお誘いをすると、多くの利用者様が気持ちよく入浴されている。 ・夕食後や就寝前にしか入りたくないという利用者様に対しては、希望に沿った対応を行っている。	入浴は週2回、午前と午後に対応している。一般浴のほか開設当時から機械浴も可能としている。一番湯、就寝前の入浴など、要望に沿って対応している。入浴を嫌がる傾向の利用者が1人おり、意向を汲み取りながら対応している。好みの石鹸などを持ち込む人もいる。歌を歌ったり、世間話をする人もいるなど楽しい時間となっている。皮膚の弱い利用者には、クリーム等を塗布している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・午睡したい、少し体を休めたいという方には時間を問わずに休んで頂いている。 ・一人で眠るのが寂しい方には、入眠するまでそばで見守る等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・利用者様の服薬情報の理解に努めている。 また、服薬後の状態観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・家事作業（食器洗いや洗濯物干し等）を通して、これまで続けてきた生活を持続し張り合いを持って頂いている。また、日々の生活に楽しみを持っていただけるよう職員も意識して取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・施設周辺の散歩や、花壇の水やり等は行っている。	コロナ禍で制限はまだあるが、事業所の周辺を散歩したり、花壇への水やり、草取り、栗拾いなどもしている。江釣子の河川敷などにドライブもしている。通院時に家族と食事をしたり、家に寄る人もいるなど日常的な外出支援をしている。	

令和 6 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームうえのまち （西ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご自身で所持する事の大切さは理解している。実際に使用する機会はないが、自身で管理している利用者様もおり、紛失しないように職員と定期的に確認を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご自分から電話を掛けたいと希望される方は少ないが、職員がご家族様へ電話する際には電話口に出て頂き会話を楽しんで頂けるように支援している。 ・携帯電話を所持している利用者様もおり、ご家族様とお話しされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間は、快適に過ごしやすいように気を付けている。 ・季節感を感じられるように、花や行事の装飾を行っている。	共用の空間は壁が白、ベージュで落ち着いた雰囲気である。エアコン、加湿器を設置し、快適に過ごせるようにしている。壁には利用者が作った季節の折り紙や書道など飾って季節を感じられる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・一人で過ごしたい方は静かな場所にて過ごしていただいたり、皆様と過ごしたい方はソファーに座り談笑して頂いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室内は、利用者様や家族様と相談し、利用者様の好みや身体状況等を考慮したり、過ごしやすい空間になっている。 ・ご自宅で使用していた椅子等を持ち込まれる方もいる。	居室には可動式ベッド、箪笥、床頭台が備え付けられている。利用者はテレビ、冷蔵庫、椅子、衣装ケース、ハンガーラック、家族写真、位牌、仏具など思い思いの物を持ち込んで居心地よく過ごせるように配慮をしている。ベッドは、家族や利用者の意向に沿って配置している。温度はエアコンで管理し、冬場は、濡れタオルなどで、保湿している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・車椅子を使用している利用者様が安全に移動できるように、廊下に物を置かないようにしている。 ・安全に移動や生活が出来るように、見守りや声がけも行っている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］